

④ 2025年度 国の交付金

「保険者機能強化推進支援金・介護保険保険者努力支援交付金」に 新たに「聴こえの支援」がメニューに入りました

・2025年度より新たに、認知症の総合支援の一つとして難聴高齢者の早期発見、早期介入等の取り組みがメニュー化されました。要介護の改善や高齢者の社会参加などの目的で、難聴高齢者の早期発見や普及啓発などに取り組んでいる自治体に対し、申請に基づき交付金が交付されます。補聴器助成単独には活用できません。

令和7年度介護保険保険者努力支援交付金評価指標（市町村分）抜粋	
体制・取組指標群（プロセス指標）	活動指標群（中間アウトカム・アウトプット指標）
目標II 認知症総合支援を推進する	
1 認知症サポーター等を活用した地域支援体制の構築及び社会参加支援を行っているか。 ⇒ 認知症サポーター等による支援体制等を評価	1 高齢者人口当たりの認知症サポーター数
2 認知症のある人に対して、専門医療機関との連携により、早期診断・早期対応に繋げるための体制を構築しているか。 ⇒ 医療との連携による早期診断・早期対応の取組状況を評価	2 高齢者人口当たりの認知症サポーターステップアップ講座修了者数
3 難聴高齢者の早期発見・早期介入に係る取組を行っているか。 ⇒ 難聴高齢者の早期発見・早期介入に係る取組状況を評価	3 認知症地域支援推進員が行っている業務の状況



問合せ先・厚生労働省老健局介護保険計画課

電話 03-5253-1111(内戦 2165)

「聴こえの支援」実践自治体 山形市「聴こえのくっきり事業」

ヒアリングフレイル(聞こえの衰え)の予防・早期発見、補聴購入補助、補聴器の調整や定期受診、装着後のデータ分析までをパッケージにした事業。

2022.12月から参加対象は65歳以上の市民で定員は100名でスタート。補聴器購入の対象になると上限4万円の補助。

山形市と山形大学医学部耳鼻咽喉・頭頸部外科、市医師会、県言語聴覚士会、認定補聴器専門店が連携。

問合せ先・山形市福祉推進部長寿支援課 TEL 023-641-1212

⑤ 日本の身体障害者認定基準 〈聴力〉

〈WHO(世界保健機構)による聴力定義〉

日本の補聴器支給基準(70 dB以上)

表1 身体障害者福祉法に基づく身体障害者障害程度等級表

1級	(なし)
2級	両耳の聴力レベルがそれぞれ100デシベル以上のもの（両耳全ろう）
3級	両耳の聴力レベルが90デシベル以上のもの（耳介に接しなければ大声語を理解しえないもの）
4級	1. 両耳の聴力レベルが80デシベル以上のもの（耳介に接しなければ話声語を理解しえないもの） 2. 両耳による普通話声の最良の語音明瞭度が50%以下のもの
5級	(なし)
6級	1. 両耳の聴力レベルが70デシベル以上のもの（40センチメートル以上の距離で発声されて会話語を理解し得ないもの） 2. 一側耳の聴力レベルが90デシベル以上、他側耳の聴力レベルが50デシベル以上のもの

重度難聴	81デシベル以上
高度難聴	61~80デシベル
中度難聴	41~60デシベル
軽度難聴	26~40デシベル



6級でも70dB以上